



### 「どちらがマシか？」の選択

大統領選の投票直前、米国民は「どちらの候補が信用できるか？」(ワシントン・ポスト)という選択を迫られている。

共和党候補のドナルド・トランプ氏は、女性への不適切な言動や、税金の不正疑惑、ロシアとの関係などで不信感がある。民主党候補のヒラリー・クリントン元国務長官は、私用メール問題や、クリントンホワイトハウスの次の主は「究極の選択」で選ばれそう

だ(AP)

かわかみ・たかし 1955年、熊本県生まれ。拓殖大学海外事情研究所所長。大阪大学博士(国際公共政策)。フレッチャースクール外交政策研究所研究員、世界平和研究所研究員、防衛庁防衛

どつなっているのか。6日の米政治専門サイト「Real Clear Politics」によると、大統領選挙人538人(過半数270)に対し、クリントン氏は216人、トランプ氏は164人が固まつた。現在、残る158人をめぐる攻防が展開されており、激戦州でトランプ氏が猛烈に追いつけている。

### 米大統領選 白人有権者の動向に注目

これに対し、トランプ陣営では投票直前、トランプ氏の妻であるメラニア夫人が演説し、「いまの米国は問題が多すぎるが、夫なら解決できる」と訴えた。トランプ氏は選挙期間中、女性蔑視の言動で始終苦しめられた。メラニア夫人は「夫は女性を尊重し」「紳士だ」と擁護した。米国では「夫婦の絆」が重要となる。投票直前に、メラニア夫人を改めて舞台上に投入したの

増加している。特に、民主党では非白人の支持者が増え、よりリベラル(革新的)になっている。一方、共和党支持者はマイノリティー(少数派)となりつつある白人が多く、高齢化が進み、さらにコンサバティブ(保守的)となる。このことは、今回の大統領選でクリントン氏が勝てば「白人優位社会」が米国から消滅することの意味する。逆に、トランプ氏が勝利すれば、米国では人種問題が根強く残ることになる。いづれが勝利しても、米国は内向きとなり、世界から「シェリフ(警察官)」は消え、世界は緊迫することとなる。

「選挙のプロ」であるカール・ロープ氏(元大統領次席補佐官)は、投票日当日(米国時間8日)は、トランプ氏がどれだけ確実に白人有権者を確保するかに注目し、クリントン氏がアフリカ系米国人や、ヒスパニック、ミレニウム世代の票を得るかを見極めよと語る。米国では、非白人系の人口に占める割合が年々